

音楽教科 2年生 単元名『 せいかつの中にある音を楽しもう 』授業実践・授業研修	
日時	7月8日(月)
授業者	中田 智栄美
本時のねらい	身の回りにある音を声で表し、友だちと協働しながら音楽づくりをする活動を通して、声色、高さ、強さ、長さ、音の重なり等の働きの効果の面白さを感じたり、友だちの工夫から自分の表現を見つめ直し、愛着をもって表現したりしようとする。
単元・題材計画	第1次 生活の中にある音を見つけよう……………2時間 第2次 見つけた音を声で表し、音楽をつくろう……………3時間 (本時3/3時間目) 第3次 みんなで作った音楽を聴き合おう……………1時間
授業の実際 (本時の流れ)	自分の見つけた音を、友達の音と繋げたり組み合わせたりして音楽づくりを行った。まずはグループになって練習し、その後、他のグループの発表を聴き合った。強弱を意識しているグループが多く、「静かな様子を伝えるときは、あまり口を開けないで息を出す感じで小さく言えばよい。」などと意見があった。また、タイミングを合わせられるよう、自然と指揮者役になったり、拍をとったりする姿が見られた。いくつかのグループの発表後、再度より良くなるよう各グループで考えた。
事後協議の概要	・自分のグループの音楽づくりに一生懸命になり、他のグループの表現に目を向けられていない場面もあったため、他のグループの発表を聴けば、自分の表現を更に深められるかもしれないという当事者意識を高めていく必要がある。また、新しい発見は自分の表現に活用できるか確かめられる場を保証することも大切である。 ・音楽科は、自分の思いや表現方法が様々なため、受容はできても共感難しい教科である。教師が、子供たちが考える視点を明確にし、価値づけていくことが大切になる。また、互いに受容共感していけるように、教師と子供の関わりに留まらず、子供と子供の関りを広げていく。

※写真を数枚(授業の様子が分かるもの・協議の様子等)

